

平成 21 年 5 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530604

研究課題名（和文）教員養成カリキュラムにおける「いのち」の教育

－教育内容の構造化と教授法の検討－

研究課題名（英文）“Life & Death Education” in teacher training curriculum

研究代表者

鈴木 真由子（SUZUKI MAYUKO）

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：60241197

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教員養成 大学 教師教育 カリキュラム 「いのち」の教育

1. 研究計画の概要

本研究では、教員養成カリキュラムにおける「いのち」の教育について、国内外の文献調査、学生等に対する意識調査等をてがかりに教育内容を構造化する。また、その結果に基づいてシラバスを作成し、教員養成系学部に通う学生を対象として、試行的に「いのち」の教育を実践する。その中で複数の教授法を試み、受講生の授業評価・感想等を分析することによって、有効性を検証する。

2. 研究の進捗状況

まず、関連する国内外の文献を収集・分析し、教員養成カリキュラムのあり方に関する共通理解を深めた。また、教員養成系大学・学部の Web サイトで公開されているシラバスを用いて、教員養成カリキュラム全体を通して「いのち」に関わる授業がどのように開講されているのか、データを収集した。公開されていない一部の大学・学部のシラバスについては、入手できる範囲において冊子を取り寄せ、同様の観点で調査した。関連するキーワードとして「生」「性」「死」「いのち（命・生命）」を設定し、これに基づいて検索を行った。その結果、ヒットした授業の多くは、理科教育（生物）や保健体育の専門科目であり、「いのち」の教育に直接関わると考えられる授業はほとんど開講されていないことが確認された。

また、国内外の文献調査、研究 2 年次に実践した大学院および学部における「いのち」にかかわる授業とその評価分析を踏まえ、継続した調査活動および授業実践を行った。

授業では、グループディスカッションやイメージマップの作成、二人一組で虐待の相談

場面についてのロールプレイ、一人称の死をテーマにしたグループワーク、中学生向けの授業内容の模擬体験等のほか、ゲスト講師による多様な教授法を試行した。ドラマや音楽など、受講生にとって身近な教材だけでなく、児童文学作品（詩・物語）も受講生の関心を高めるのに役立った。

調査活動としては、「いのち」の教育について広く意見を求めるため、終末期医療にたずさわっている医療者、児童相談所等の医療・福祉関連施設の職員を対象にしたヒアリング調査、および中学校教育現場において「いのち」の教育を実践してきた教育者を対象としたインタビューを実施した。

その結果、医療者の視点として受容的態度でのカウンセリングが重要であること、その際、共感的コミュニケーションが求められることが明らかとなった。これらは、教育現場においても重視されるべきものであった。

3. 現在までの達成度

○概ね順調に進展している。

当初、研究期間を二分割し、前半の二年で教育内容の構造化を、後半の二年で教授法の検討を実施する計画であった。現在までのところ、それぞれの内容を分割せず、同時並行的に実施している。予算の都合上、調査の規模や対象は縮小せざるを得なかったが、データコストを考慮して効率的に実施している。

最終年度は、それらを総括できるようにまとめるとともに、複数回の授業実践によって、教員養成カリキュラムにおける「いのち」の教育のあり方をシラバスの形で提案したいと考える。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、昨年度に引き続き教員養成カリキュラムにおける「いのち」に関わる授業を試行的に実践・省察・評価し、その有効性を検討する予定である。

また、小中高の教員等を対象とした意識調査を実施し、教員養成カリキュラムにおける「いのち」の教育内容について総括する。その際、試行的に実践する授業の受講生に対しても同様の項目で調査を実施し、それらの結果に基づいて最終的なシラバスを作成する。

具体的には、以下の通りである。

(1) シラバスの再検討と試行的授業の実施

昨年度実施した試行的な授業を精査し、シラバスを再検討して授業を実施する。授業は、前期および後期に実施し、学部生ならびに大学院生を対象とする。授業には「いのち」の教育実践をゲスト講師として招き、受講生とディスカッションする機会も設定する。

(2) 授業の記録と振り返り

授業の様子を記録し、後日省察する。授業は可能な限り公開し、他者からの客観的な評価が得られるようにする。授業後に検討会を持ち、授業の評価をおこなう。

また、授業記録とともに、受講生を対象とした授業評価調査を実施する。また、最後に授業全体を通じた考察をレポートしてもらい、その記述内容から授業目標の達成度を確認する。

(3) 教員等に対する意識調査の実施

養護教諭、家庭科教諭、保健体育教諭、学生を対象に、教員養成カリキュラムにおける「いのち」の教育内容に関する意識調査を実施する。

(4) 教員養成カリキュラムにおける「いのち」の教育のシラバス作成

研究全体を総括し、教員養成カリキュラムで展開すべき「いのち」の教育についてシラバスを提案する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ①服部晃次、鈴木真由子、教員養成における「いのち教育」の授業実践～一人称の死を考える授業の実現性の検討～、教科教育学論集、8、71-84、2009、査読無し

- ②岡本正子、性的虐待が及ぼす心身への影響、子どもの虹情報研修センター紀要、6、106-124、2008、査読無し

- ③鈴木真由子、池田智美、岡本正子、大学生の死生観と自尊感情、生活文化研究、46、29-41、2006、査読無し

[学会発表] (計 2 件)

- ①田吹和美、堀江美智子、鈴木真由子、丸山智彰、岡本正子、高校生の学校生活、家庭生活の意識・実態調査－児童虐待予防の視点からの家庭科教育－、子ども虐待防止学会、2007.12、三重

- ②鈴木真由子、教員養成系大学生の自尊感情と死生観、死の臨床研究会、2006.10、大阪

[図書] (計 5 件)

- ①岡本正子他編著、『教員のための子ども虐待理解と対応』、鈴木真由子、「いのちの教育」の視点から、生活書院、117-129、2009

- ②岡本正子他編著、『教員のための子ども虐待理解と対応』、岡本正子、薬師寺順子、子ども虐待をとらえる基本的視点、生活書院、11-51、2009

- ③アメリカ家政学研究会編、『生活の経営と経済』、鈴木真由子、高度生殖医療、家政教育社、155-170、2008

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]